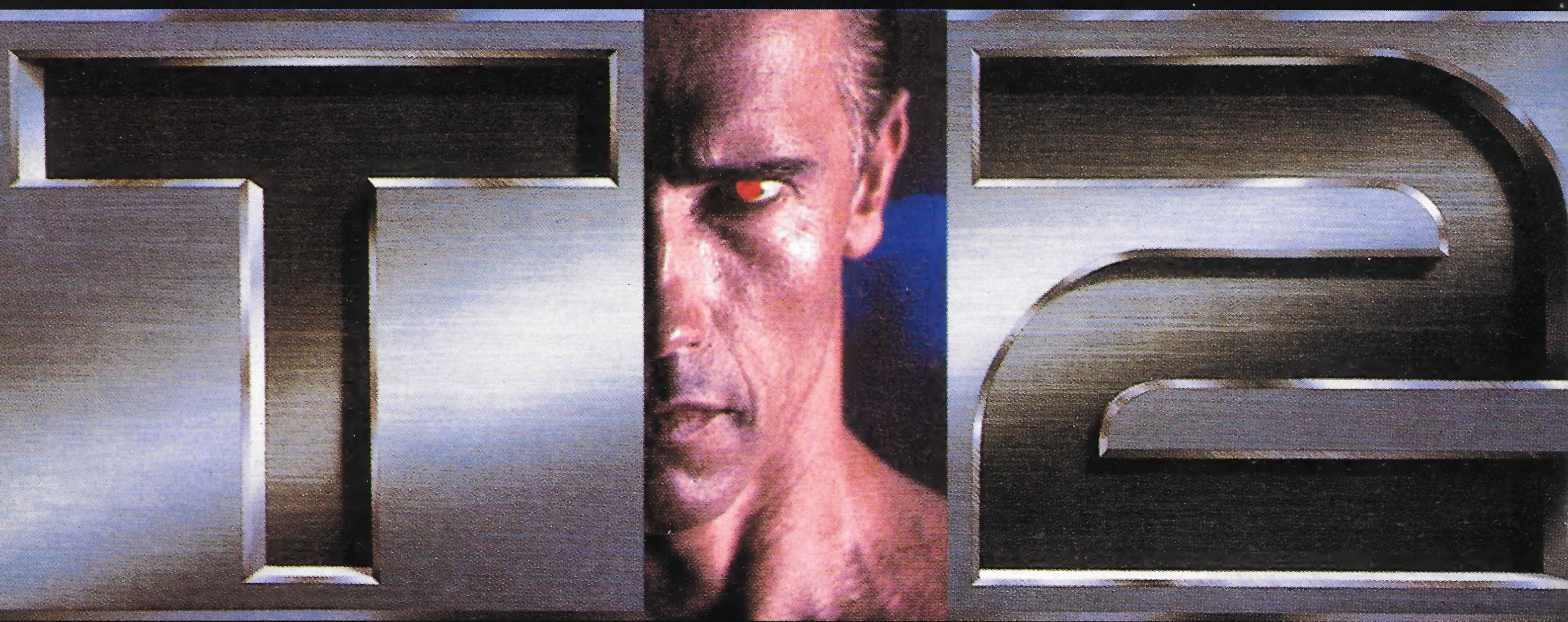
ARNOLD SCHWARZENEGGER



TERMINATOR™ 2
JUDGMENT DAY

TEN YEARS AGO,
THE MACHINES WHO RULE THE FUTURE SENT AN UNSTOPPABLE TERMINATOR
TO ASSASSINATE THE YET UNBORN JOHN CONNOR. THEY FAILED.
IN 1991,
THE MACHINES WILL TRY AGAIN.

PRODUCED AND DIRECTED BY JAMES CAMERON
EXECUTIVE PRODUCERS GALE ANNE HURD AND MARIO KASSAR
STARRING ARNOLD SCHWARZENEGGER AND LINDA HAMILTON

ジェームズ・キャメロン監督作品
ターミネーター2


「I'll be back·····」


ターミネーター2
パシフィック・ウエスタン・プロダクション／ライトストーム・エンターテイメント提携
1991年アメリカ映画／カロルコ超大作／シネマスコープ SPECTRAL RECORDING DOLBY STEREO SR IN SELECTED THEATRES
カラー作品／上映時間2時間17分
パイオニアLDC提供／東宝東和配給





INTRODUCTION





■世界映画史上――NO.1ヒット作品

心臓が鼓動を失うほどのスリルとサスペンス。さらに、瞬きする間もない鮮烈な映像とストーリー展開を合わせ持った前作「ターミネーター」は、世界中の映画マーケットで、いずれもスーパー・ヒットを記録した。

壮絶な戦闘――。そして迎えたあのクライマックスから、非情にも更に続く未来の出来事を啓示して、6年の歳月が流れていった。全世界の映画ファンが、未来の展開にこれ以上ない期待を抱き、その欲求に吊されたまま……。

そして1991年6月、ついに『ターミネーター2』は完成した。さらに、この超話題作はいま、公開と同時に世界でたったひとつしかない勲章を手にしたのである。

贈ったのは、同業の審査員や映画評論家ではなく、それ以上に映画の面白さに敏感な一般の観客。伝統ある米・アカデミー賞やカンヌ映画祭グランプリというブランドでなく、映画の与えられた使命からいえば、それらのどの賞よりも価値のある勲章を……。

湾岸戦争では形式上、大勝利を収めたアメリカが、新たなるその国力を世界に示さんと、今年のアメリカ独立記念日(7月4日)のメイン行事は、国中の各都市で行われる米軍の湾岸戦争大勝利凱旋パレードのはずだった。しかし、この期間の主役をあっさり奪ったのは、未来から送られてきた“ターミネーター”というエキサイティングなサイボーグ・マシーンを乗せた超エンターテイメント・ムービー『ターミネーター2』だったのである。

7月3日から合計2274館(北米地区)で公開された『ターミネーター2』はオープニング・ウィークエンド(5日間)の合計で世界映画史上最高の52,306,548ドルという新記録を樹立。今年のサマー・シーズンを制するどころか、世界にたったひとつしかない栄えある勲章が与えられる結果になった。

■もう誰も追いつけない

そもそも今年の全米サマー・シーズンは例年になく話題作豊富な状況だった。公開された本数はゆうに50本を数え(例年は30本強)、あらゆるターゲットに向けて様々なジャンルの映画が公開された。「バックドラフト」「ハドソン・ホーク」「ロビン・フッド」等大作も多かったが、結果的にこれらの作品は『ターミネーター2』の足元にも及ばなかった。だが、アメリカ国内の興行関係者はこの結果を既に予期していたという。極秘スケジュールで進行されてきた製作過程や、“公開日までストーリーの一切を公表しない”という逆キャンペーンが見事に成功し一般観客の間に一日も早く『ターミネーター2』を探ろうという意識が広く蔓延して、期待度は膨らむ一方。彼らは枯渇状態に陥っていたのだという。

そして7月3日、全米は爆発した。その日のマスコミ各社は一斉にこの状況を世界へ向けて報道。さらにこの熱気が冷めやらぬままに、いよいよこの夏、『ターミネーター2』は日本上陸する。

■舞台はあれから10年が経過した1994年――その日がジャッジメント・デイ。ただし、世界共通で『T2』のストーリーの全貌は一切極秘に！

長年の期待が、夢が、現実として瞳に刻まれる日。そしてあの未来に審判が下される日が近づいて来る――。

燃えさかる炎の中から、金属音を響かせてあの赤い目がどこまでもどこまでも追って来る。どう贖っても通じない絶望感――。そんな状況の中でカイル(マイケル・ビーン)は未来のリーダーからのメッセージだといって、サラ(リンダ・ハミルトン)にこう伝えた。「お母さん、たいへんだと思いますが頑張って生き抜いて、僕を生んで下さい。――未来はまだ決っていない。運命は自分で創り出すものだ――そしてお母さん。人類の未来はあなたにかかっているのです」と。

この言葉はどこにでもいる女子大生だった彼女を、目的意識をもった人間に変身させ、あまりにも有名な前作のラスト・シーンに象

徴される暗雲垂れ込める彼方（未来）へと旅立たせた。
『T2』はそのラスト・シーンから始まる展開だが、世界共通でストーリーの全貌は一切明かされていない。世界共通というレベルでこのような指令が徹底されるのは極めて異例な事だが、これにはある理由がある。
「T1」と『T2』は一つの壮大なメッセージをもとに描かれた物語だが、「T1」で我々が目撃した事実の半分が『T2』に連携し、そしてもう半分の事実は『T2』で全く覆されるからなのだという。

■神々の技と呼ぶにふさわしい最新映像世界。スクリーンを四次元世界で行き交う いま、最も進んだ特殊視覚効果

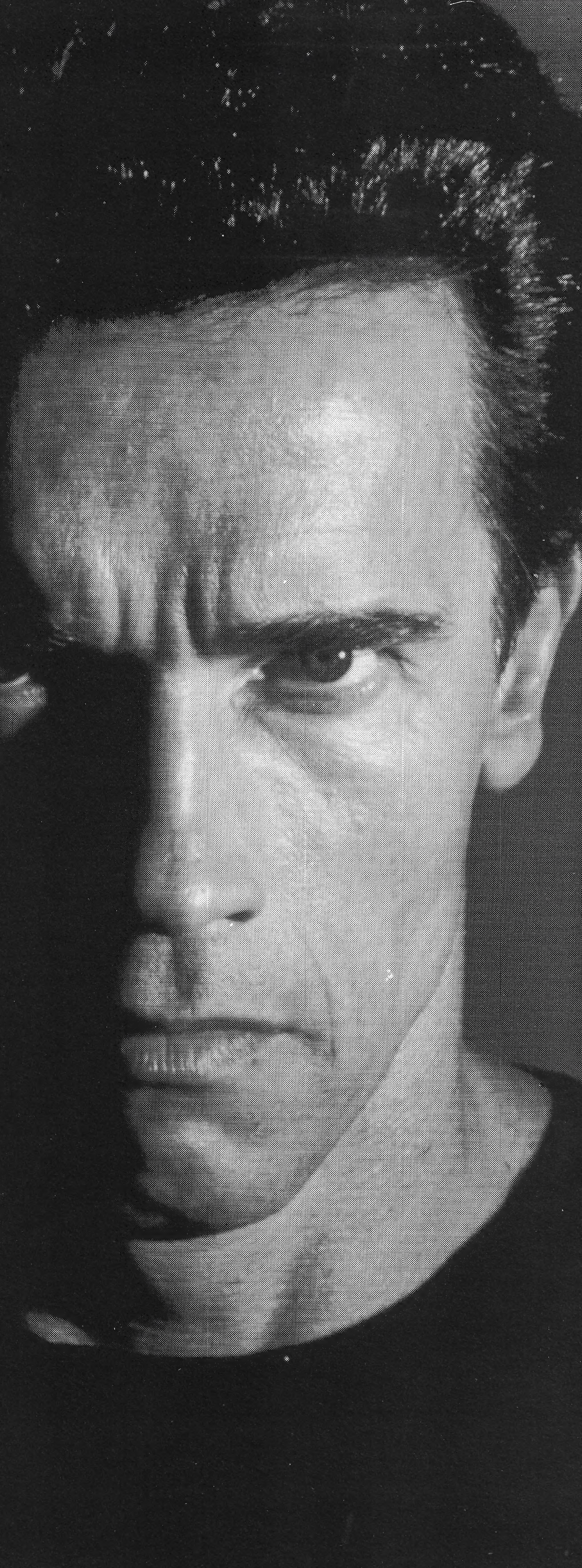
また、『ターミネーター2』では、観る者の目を疑うほどの恐るべき最進化SFXが導入された。いまをときめくハリウッド名うてのクリエーターたちが持てる才能を十二分に発揮して創造した新・映像世界。屈強で絶命を知らないターミネーターを製作した、アカデミー賞受賞者スタン・ウィンストンは勿論のこと、ジョージ・ルーカス率いるI. L. M.やキャメロン監督がこの映画のために特別に構成した効果班など、その総数はキャメロンの前作「アビス」の実に4倍にものぼる。筆舌につくしがたいという形容詞は、まさにこの『ターミネーター2』で繰り広げられるビジュアルの為にある。

■史上最高の製作費1億ドル（前作の10倍）を突破！

さらに、『ターミネーター2』には史上最高という言葉がついてまわる。『T2』の時代設定は1994年。「T1」の時は、それが公開された1984年その年現在が舞台だから、今回はいまから3年先の未来が舞台となる。この世界を構築するため、『T2』には史上最高の1億ドルという製作費が投入された。これは実に「T1」の10倍にものぼる巨費。胸躍らされる近未来世界のセット、まるで戦争が行われているようだったと称されるL. A.のロングビーチにあるフリーウェイでのロケ、そして余りにも自然すぎる特殊視覚効果など、徹底したエンターテイメントの世界が展開する。

■シリーズを通して、スタッフ・キャストのメンバーは一切変更なし

前出のように「T1」と『T2』は一つの壮大なメッセージをもとに描かれているため、スタッフ・キャストともに「T1」のメンバーが再結集した。
監督は前回同様ジェームズ・キャメロン。単調な映画は撮らないという絶対的信用を持つ。通常、ヒットした映画の続編は1作目よりレベルが落ちるものだが、キャメロンが例外であることは「エイリアン2」で周知の事実。『T2』では違う角度から光を当て、全く別の、しかも前作を遥かに越えた面白さを引きずり出していく。静かな不気味さと、強烈な圧迫感もグレードアップしている。
キャメロン監督は次のように語る。
「基本的には、サラ・コナーの10年後を描いた話で、前作を撮ってから約10年近く経過するのでちょうどいいと思ってね。サラは、世界が破滅する日を知りながら生きているんだ。その恐怖から彼女は悪夢にうなされ、狂気に襲われたかのようになってくる……。彼女の言うことを誰一人として信じてくれない訳だからね……。サラの人生を変えた息子ジョン・コナーが、いまや10歳に成長している。つまり今回、ターミネーターのターゲットになるのは、もはやサラではなく、直接息子のジョンになる訳だが……。」
スタッフの中には、『T2』の構成及びストーリーは前作製作中に既に完成していたという者もいる。裏を返せば、『T2』を描くために前作が製作されたと取ることもできる。
キャメロン監督、製作のゲイル・アン・ハード、そしてシュワルツェネッガー、リンダ・ハミルトンは勿論のこと、撮影のアダム・グリーンバーグ、特殊効果のスタン・ウィンストン等、彼らがまたひとつ、世界映画史を塗り替えてしまった。





アーノルド・
シュワルツェネッガー

'84年の「ターミネーター」は興行的な大成功を収めただけでなく、批評家達の大絶賛を浴びた。この映画で彼は、見事な肉体を鋼鉄にみたてた殺人ロボット役で新境地を開き、史上最強のスーパースターとしてハリウッド映画界に君臨することになる。

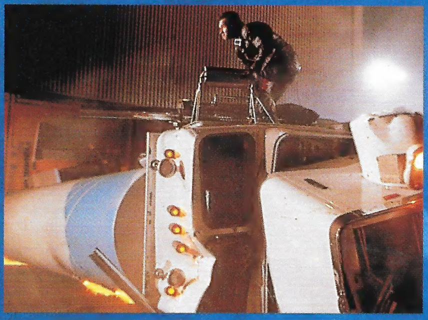
1947年7月30日、オーストリアのグラーツ生まれ。警察官の父を持ち、幼い頃はサッカーに夢中だった。15歳でボディビルを始め、'67年ミスター・ユニバースに選ばれる。'69年渡米してUCLAで心理学を学び、ウィスコンシン大学で経営学と国際経済を専攻する。

ボディビルではミスター・ユニバースを5回、ミスター・オリンピアを8回も獲得、「ボディビルダーの教育」など3冊のベストセラーを書いている。'70年「SP超人ヘラクレス」(未)で映画デビュー、'75年「青春の選択」でゴールデン・グローブ賞最優秀新人賞を受賞。'82年輝くばかりの肉体美を生かして「コナン・ザ・グレート」に主演、一躍人気スターになる。

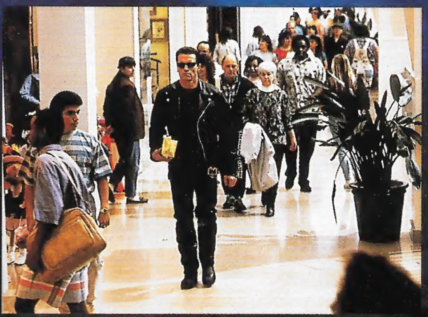
「ターミネーター」以後、「コマンドー」('85)「プレデター」('87)「バトルランナー」('87)とたて続けに大ヒットを放つ。近年では「レッドブル」「ツインズ」('88)や「トータル・リコール」('89)「キンダーガートンコップ」('90)のように、たくましい肉体と知性、そして豊かな感受性を合わせ持つヒューマンな役柄が魅力となってきている。

そして数々の栄光を身につけて彼は今『T2』に戻ってきた。さらにグレードの上がったその演技は今度は何処を目指すのか。













MESSAGE FROM ARNOLD SCHWARZENEGGER

アーノルド・シュワルツェネッガー

「1984年の撮影以来、『T2』のための演技を、どのようにしたら上達させることができるかということを、私はずっと考えて努力してきました。その結果、いいシリーズが完成したと満足しています。たいていの場合、続篇というのはなかなか上手くいかなくて、お金があるからとにかく作ったという印象を与えてしまうのですが、今回は違います。ストーリーがとても良いものだからです。その点が、他の作品と違うところです。例えば"コマンド-2"や"プレデター2"はストーリーがそれ程完璧でないので私は辞退しました。『T2』では、『T1』で明らかにされなかった様々な事実と、あのあとサラが進んでゆく未来に対する解答が満載された素晴らしい完成度です。

前作はそれ一つで新しいジャンルを形成したと思うのですが、その理由はこの映画によってアクション映画が必ずしもばかばかしい映画でないことを証明したからです。多くのアクション映画は実際ばかばかしいストーリーで、それらはひとまとめに"アクション映画"と呼ばれていますが、「ターミネーター」はハイテクを駆使した質の高い映画となっています。ただのアクション映画とはちがうので、どうやってプロモートするかについては苦心したようですが。初めて上映して以来、女の人も老人も、インテリジェントな人も見に来るようになったので、この映画は本当にあらゆる人のための映画となりました。この映画の外観、監督のやり方、主題、ストーリーのおかげでこの映画は本当に"インテリジェント"な人のためのもの、とタイム誌に呼ばれるようになったのです。今回の映画では、ストーリーに豊かなものがあり、知的な要素もあり、又、技術的な面では照明や撮影の専門家に恵まれ、また特殊効果も素晴らしいですし、ストーリーをどうやってスクリーンに映すかについて成功した特殊なケースだと思います。前作ではそれ程予算がなかったので、やりたかったこと全てができたわけではないのですが、今回は予算があるので、いろいろなことができました。全世界の映画ファンの期待を満たして、なお余りある作品であることは間違いありません。今年の夏興行を制するどころか、長期間のロングラン、そして映画史上に語り継がれる作品だと思って下さい。」

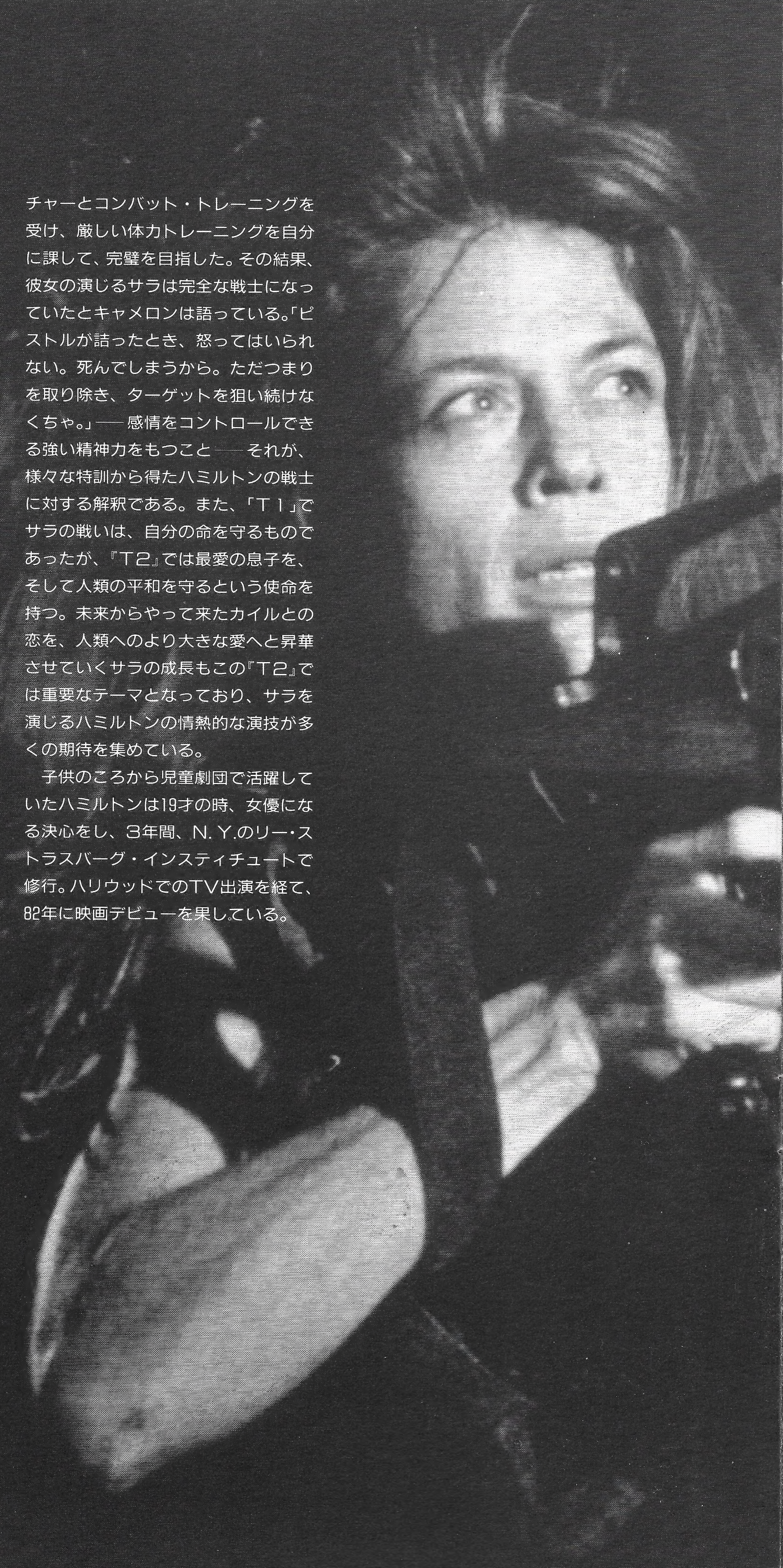
LINDA HAMILTON as SARAH CONNOR

リンダ・ハミルトン



「T1」で平凡な女子大生が人類のリーダーの母として目覚めていく様を熱演し、一躍スターダムにのぼりつめたリンダ・ハミルトン。今回は、幼い息子を守る母親として、人類の未来を担う女戦士として、力強く生きる女を演じている。「ブラック・ライダー」(86)「キングコング2」(86) などSF映画やアクション映画の出演が多い彼女は、他を圧倒せんばかりのパワーを持ち、なおかつ母性的な愛情をも感じさせる、まさに人類のリーダーの母サラ・コナーにふさわしいキャラクターの持主である。『T2』でのサラ・コナーの役づくりのため、ハミルトンは元イスラエルのコマンドーから武器に関するレクチャーとコンバット・トレーニングを受け、厳しい体力トレーニングを自分に課して、完璧を目指した。その結果、彼女の演じるサラは完全な戦士になっていたとキャメロンは語っている。「ピストルが詰ったとき、怒ってはいられない。死んでしまうから。ただつまりを取り除き、ターゲットを狙い続けなくちゃ。」──感情をコントロールできる強い精神力をもつこと──それが、様々な特訓から得たハミルトンの戦士に対する解釈である。また、「T1」でサラの戦いは、自分の命を守るものであったが、『T2』では最愛の息子を、そして人類の平和を守るという使命を持つ。未来からやって来たカイルとの恋を、人類へのより大きな愛へと昇華させていくサラの成長もこの『T2』では重要なテーマとなっており、サラを演じるハミルトンの情熱的な演技が多くの期待を集めている。

子供のころから児童劇団で活躍していたハミルトンは19才の時、女優になる決心をし、3年間、N.Y.のリー・ストラスバーグ・インスティチュートで修行。ハリウッドでのTV出演を経て、82年に映画デビューを果している。



MESSAGE FROM LINDA HAMILTON

リンダ・ハミルトン

「「ターミネーター」の1作目を演ってる時から続篇がありそうだと感じていたわ。いえ、きっとあると信じながら演じていた。前作を観て、この『T2』が完成するのを心待ちにしていた人々が世界中にいると思うけど、私自身、この『T2』で10年後のサラを演じることを最も期待していた一人だと思う。この役には、私のクリエイティブな全てを注ぎ込んだわ。」




CAST



エドワード・ファーロング

（ジョン・コナー）

1977年8月2日、カルフォルニア生まれ。

サラの10才になる息子ジョンを演じるエディは、夏休みに地元のボーイズ・クラブに参加しているところをスカウトされたラッキー・ボーイ。「傷つきやすく、思わず守ってあげたくなるキャラクターを持ち、同時に強くもなれる少年」という複雑な条件にピッタリあてはまっていたという。

撮影までの1ヵ月という短期間で、彼は学校の勉強はもちろん、演技のレッスンと体力トレーニングのほか、スペイン語とオートバイの練習というハード・スケジュールを見事にクリア。しかし、慣れない撮影で緊張していたせいか、始めは、シュワルツェネッガーとなかなか話せなかったという。そんな彼をリラックスさせるため、シュワルツェネッガーは彼の大きい兄貴になって、よく一緒に遊んだと語っている。

好きなものはラップ音楽とホラー映画（特に“エルム街の悪夢”シリーズ）。趣味はキャメロン監督にもらったビデオ・カメラでホーム・ムービーを撮ること。



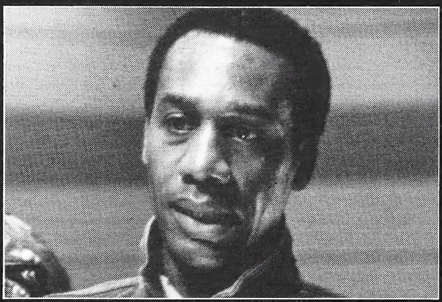
ロバート・パトリック

（T1000型ターミネーター）

新ターミネーターT1000型を演じる。

ジョージア州生まれ。高校から大学までスポーツに親しみ、大学では1年生でフットボールの代表チームの一員に選ばれるほどの実力を発揮。しかし、ドラマの授業に出席してからは演技に興味を持ち、フットボールをやめて役者になる決意をする。1984年には、カバンひとつでハリウッドに移り、ウェイターの仕事をしながらチャンスを待った。2、3週間後、仕事中にプロデューサーと監督に見出だされ、舞台でデビュー。そこでキャスティング・ディレクターの目にとまり、映画デビューを果す。悪役、精神異常者などダークなイメージの役が多かったが、次第にファンタジーやコメディにも出演するようになり、それと共に観客の支持を集め始める。そして、「48時間 Part2／帰って来たふたり」（90）でのオーディションがきっかけとなり、ハーリン監督に推薦され、「ダイ・ハード2」（90）での役を得ることとなった。彼はブルース・ウィリスにやっつけられる殺人鬼オライリーを演じている。

『T2』で彼を起用した理由としてキャメロンは次のように語っている。「ロバートを気にいったのは猫に似ているからだよ。T1000はそんな感じをすごく持っているんだ。」



ジョー・モートン

（マイルス・ダイソン）

革命的な新型コンピュータチップの研究をする科学者マイルズ・ダイソンを演じる。

映画、TV、演劇など、広範囲にわたって活躍しているベテラン俳優。ジョン・セイルズ監督作品「ブラザー・フロム・アナザー・プラネット」（84）の主役を演じ、一口も口をきかずに心の暖かな宇宙人を演じて絶賛された。同じくセイルズ監督の新作「CITY OF HOPE」ほかがリリースされる予定。TVでも大絶賛をあびたシリーズに出演し、NAACPイメージ賞にノミネートされた。PBSやBBCのシリーズにもよく顔を出しており、「マイアミ・バイス」ほかの番組にゲスト出演している。

大学在学中、古典劇にあこがれニューヨークへ旅行し、そこでミュージカルの世界に魅せられる。それから5年後、映画化された話題作ジョーゼフ・パップの「ヘアー」で遂にブロードウェイの舞台に立ち、夢を実現。オフ・ブロードウェイの主演を経て、再びパップの作品でクリフト・デイビスの後任を務めた。その後、トニー賞ノミネートなど順調にキャリアを積む。そしてこの夏、かねてからの念願であったキャメロン作品に出演。



あれから10年後の1994・ロス
運命を背負ったタイム・トラベラー達に
審判の日は近づいてくる。

STORY

1984年・ロス。この街に、あのターミネーターは現れた。

奴は2029年の未来から送り込まれて来た殺戮マシーン。その使命は、サラ・コナーという女性を抹殺すること。送り込んだのは人間ではなく、その未来世界を支配していたスカイネットというミリタリー・コンピュータ。スカイネットは、自らを構成している分子を成長させ、そして増殖するという能力と、学習し思考するという人智の及ばない能力を併せ持っていた。ターミネーターはそのスカイネットが自ら体内の分子から創り出した産物だった。

時を同じくして、カイル・リースは現れた。

彼は、やはり2029年の未来から時空を超えてやって来た、スカイネットに抵抗するレジスタンスの戦士。彼の使命はサラ・コナーという女性を守ること。送り込んだのは、圧倒的な指導力でレジスタンスを率い、スカイネットも決して及ぶことのできない存在になっていたジョン・コナー。そして彼はサラの息子だった。スカイネットはジョンの存在を、彼がまだこの世に生を受ける以前に抹消することを策略した。サラを抹殺することによって……。

マシーンと戦士は同時にサラに接近。戦闘の火ぶたは切って落とされた。

サラを巡ってのその激闘の中で、どこにでもいる女子大生だった彼女は確実に変わっていった。変えたのは使命感。そして、それを抱かせたのはカイルが彼女に伝えた2つの事、1997年8月29日に核戦争が勃発し、人類が滅亡するという決定的な事実と、ジョンがサラに宛てたメッセージだった。

「……未来は決まっていない。
　運命は自分で創り出すものだ……。」

この戦闘はスカイネットの策略が失敗したという形で幕を閉じた。カイルの命と引き換えに……。

ロスからメキシコへ向かう国道沿いのガソリン・スタンド。サラの姿があった。

いま、人類の未来は、すべての出来事を知ってしまった、たった一人の人間である彼女が握っている。そしてこのとき既に、彼女に未来を託した息子ジョンは、サラの中で生を受けていた。ジョンの父親はカイルだった……。ガソリン・スタンドで一人の子供が彼女にこう伝えた。「嵐が来る…。」

いまや女戦士として生きることを選んだ





サラは、暗雲垂れ込めるその彼方へジープを駆る。

行き着く先は、国境の街カルキシコ。

ここでサラはジョンを生み、グリーンベレー部隊に参加して、徹底的に実戦能力を身につけた。成長していくジョンにも、サラは攻撃能力を教育した。未来の指導者としての使命感とともに…。

サラは戦友の一人一人に悪夢の一部始終を話した。勿論、信じることのほうが難しいその出来事に、彼らの理解が最初から約束されていた訳ではない。だがどんな言葉よりも、彼女の決意に満ち溢れた瞳がその時間を短縮させることを手伝い、彼らの間には、どんなものにも屈しない確かな友情が築き上げられていったのである。

ここに、一人の勇敢な戦士として成長したサラがいる。

いま彼女はロスへ戻ることを決意した。全ての事を伝えるために…。

だが、ロスへ戻ったサラを待っていたのは、彼女に対する人々の異常なほどの警戒心だった。多くのことを伝えようとすればするほど、サラは凶悪犯罪意識の潜伏者として扱われた。確かに、あの悪夢の出来事を証明する証拠は、既に何も残されていない。プレスで粉々になったターミネーターの残骸も、"あの工場"からは何も回収されることがなかった。

サラはロス警察の監察下に置かれ、精神病院に送り込まれてしまう。残されたジョンは養子縁組を強制され、郊外に住むある夫婦の家に預けられた。

時に1994年。

あの悪夢から10年が経過したというのに、サラとジョン以外のすべての世界は何も変わっていなかった。人類滅亡の日が3年先に迫っているというのに……。

ロスはその夜も静かに更けて行くはずだった。言い表しようのない閃光が2回、その闇を切り裂くまでは……。

しかし、今回は"あの時"とは決定的に違っていた。いま、その閃光に浮かび上がったシルエットは、それぞれが間違いなく、あのターミネーター・マシーンだったのである。

あの未来から、今度は2体が送りこまれてきた。1体を送り込んだのはスカイネット。あの時のターミネーター（サイバーダイン101型）より、数段優れた能力を持ち併わせたそのマシーン（T1000型）は形状記憶擬似体合金で構成されどんな物体にも瞬時に変化でき、しかもその戦闘能力は101型を大幅に上廻っていた。彼の使命はジョンを抹殺すること。一度計画を失敗したスカイネットは、もてる力の全てを注いでT1000型を創り出し、ジョンがまだ抵抗力のない子供のうちに、今度は確実に殺そうとしたのである。

もう1体を送り込んだのはジョン自身。スカイネットが送りこんだT1000型に対抗できるのは、もはや人間ではない。タイプは、あの時とほぼ同じT800型だったが、ジョンの手によってこのマシーンの思考回路のI.C.チップに工作が施され、ジョン自身を守ることを使命としてインプットされていた。

あのとき確かに命を落としたカイル・リースは、サラにこう語っていた。

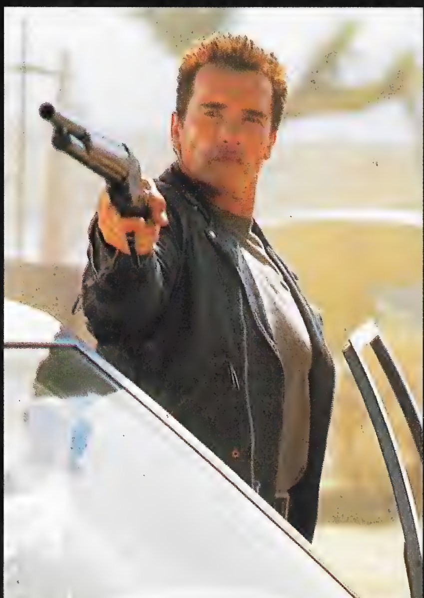
「ターミネーターは様々な時代に送られた……」と。

現在の時の流れの中で生き続けるサラとジョンに、いま初めてカイルの言葉が現実となって訪れた。

しかし、過去・現在・未来と時空の帯はつながっているのだから、未来から過去を操作することはたやすい。未来の視点からすれば、1984年にインプットしたオペレーションNo.1と1994年にインプットしたオペレーションNo.2は同時進行で行われているに過ぎないのである。

いま、2体のターミネーターは同時にジョンへのアプローチを開始した。

そしてこの2体のターミネーターがそれぞれ違う目的で近付いていることを、いまはサラもジョンも知らない。やがては彼女たちを巻き込んで、想像することすら及ばない戦闘が繰り広げられるだろうということも。そして、2029年という人類滅亡後の未来が確実に存在することを知っている、サラとジョンとターミネーターたちが1994年の現在で遭遇したこの戦いが、その人類の未来に"ある結末"を迎えさせてしまうことすらも。サラとジョンにとっては、T800型の存在すら、あの悪夢の再現にしか過ぎないのだから……。













It was going to the biggest picture ever made.
Every sequence was like the ending of "Die Hard."
(これまで作られた映画の中で、最も大きな作品になるだろう。
どのシーンも「ダイ・ハード」のエンディングのようだから。)
■プレミア誌　7月号

For all its state-of-the-art pyrotechnics and breathtaking thrills, this bruisingly exciting movie never loses sight of its humanity.
(芸術にまで高められたその爆烈シーンと息をのむスリル。そのふたつを合わせ持ちながら、傷ついてしまいそうにエキサイティングなこの映画は、それでいて人間性を考える視点も一切失っていない。)
■ニューズ・ウィーク誌　7月8日号

Cameron marries state-of-the-art stunts and technical wizardry to surprisingly intimate stories about people caught up in overwhelming situations.
(キャメロンは、芸術にまで高められたスタントとテクノロジーの魔術を、窮地に追い込まれた人間の本質を驚くべきほどに描いている物語に、見事に結合させている。)
■L. A. タイム紙　7月1日掲載

Pretty cool, more grisly, and still most entertainment.
(バシッと決まってて、より恐ろしく、史上最高のエンターテイメントであり続ける。)
■L. A. デイリー・ニュース紙　7月3日掲載

これ以上は言えない。
さらに大興奮の圧倒的パート2は、情報をシャット・アウトして見るのが一番正しい！

秋本鉄次



いよいよそのベールが剝がされる、最も公開が待たれていたパート2。その期待を裏切らないどころか、ありきたりの予想を覆す展開に目をみはるばかり。文句なしの面白さ！

しかし、実のところ、この「ターミネーター2」（以下「T2」と略）の紹介記事ほど書きにくいものは無い。映画を見てからこのページを読む人がすべてだったら、何ら苦労はないのだ。あの名場面、その仕掛け、このメッセージについて、具体的に書きつらね、読者及び観客と興奮と感動を分かち合えばいいのだから。でも、おそらくは、映画を見る前にチラッと目を通しておこうか、という人のほうが多いと思うので、そうなると具体的に書いては、エチケット違反どころじゃない。もう、石ぶつけの刑にされるかも知れないよ。

実は、製作者側、配給会社サイドからも、『決して事前に内容をバラさないで下さい』というお達しがあったほどなのだ。そういう場合、たいていは前評判を煽るための宣伝テクニックと受け取るのだが、この「ターミネーター2」の場合に限っては、それを順守することが百パーセント正しいと言える。

この映画を十二分に鑑賞できる有資格者の条件として、

その1、第1作「ターミネーター」をこよなく愛し、少なくとも二回以上見ていること。

その2、本作について、ありあまる期待のみで気分を高揚させ、よけいな情報は入れていない無垢な状態を保っていること。

その3、この「T2」の予告編（未来の工場で組み立てられているターミネーター、その赤い目が光り、アイル・ビー・バック！　と語るアレ）を劇場で見て、胸躍らせ想像を逞しくしていること。

もちろん、パート1を一回しか見ていない人、見逃している人、運悪く情報が入ってしまった人、予告編を見られなかった人でも楽しめるけど、理想を言えば、そういうことだ。

実際、僕も試写の際に、あえて、あらゆる「T2」情報をシャットアウトして見参した。それは結構大変な作業だった。この情報過多の時代、アメリカで公開後はテレビ番組や、雑誌の海外レポート、アメリカで見て来た人のおしゃべりなどなど、いやでも飛び込んで来る。それでも耐えた。その苦労の甲斐あって、僕は幸いにも、今度は全く無垢な状態で接することができた。なにしろ、再びターミネーターとなって登場するシュワルツェネッガーの性格が前回と大きく違うことすら知らずに済んだのだ。

この文章を書き進めるにあたって、具体的な描写やネタばらしを避けつつ、いかにこの「T2」の魅力を伝えられるか自信がないが、できるだけそのラインに沿ってみたい。それでも、不安なアナタ、ここで読むのを止めるのが賢明です。

今度の舞台は94年の人類滅亡寸前のロス。前作で生き残ったサラとその息子ジョンを狙って新たなターミネーターが未来からやって来る。もちろん、シュワちゃんは引き続きターミネーターなのだが、今回登場するターミネーターは1体ではなく、2体なのだ。

第1作でカイル・リース（マイケル・ビーン）がサラに語った『ターミネーターは様々な時代に送られた…』というセリフを思い起こしてもらおう。シュワちゃん扮する1体は外見は従来のサイバーダイン101型とほぼ同じのT800型だが、送り込んだのは未来のジョン自身。もう1体は未来世界を支配するミリタリー・コンピュータ“スカイネット”が送り込んだ新ターミネーターT1000型。当然のように、T800型より何倍もパワーと特殊能力に長けた凄いヤツ。形状記憶超合金で構成されたその特殊能力のヒントはキャメロン監督の前作「アビス」にあり、とだけ言っておこう。これ以上は言えない。

この新旧ターミネーターのノンストップで展開する死闘はもう大興奮大会なのだ。特に、前回と対照的に、人間を殺すようにインプットされていないT800型は大苦戦の連続。クライマックスのビルからハイウェー、そして工場へと続く果てしなき攻防戦での満身創痍ぶりは見ていて痛々しいほど。だからといって、脆弱な印象は無い。むしろ、そのハンデとも闘い続けるT800型に逞しく、そして崇高なものを感じる。マシーンに対して感情を抱くこと、そしてそのマシーンもそれに反応し始めること。これが圧倒的ラストへと至るエモーショナルな重要点でもある。オーバーでもなんでもなく、大の大人を感涙させる（ハイ、僕もその一人です）ほどの感動的描写があるのだ。おっと、これ以上は言えない。

さて、言えないことばかりじゃこちらも消化不良なので、多少具体的に言えることとしては、女戦士サラ・コナー（リンダ・ハミルトン）の描写だ。キャメロン監督自身も『これはサラ・コナーの10年後の話でもある』と語っているように、キャラクターもさらに逞しくなってこの人類危急存亡の闘いに参戦するのが、“サラ・コナー”ファンとしては嬉しい限りだ。前作のラスト『嵐が来るよ…』『分かっているわ』の名セリフとともに姿を消した彼女。その先は、ジープで国境の南に下り、息子ジョンを産み、コントラ部隊に参加して、実戦能力を体得し、コントラの戦友との友情も築き上げた。再びロスに戻った彼女は、凶悪犯罪意識の妄想にとりつかれた異常者として警察の監視下、精神病院に収容されてしまっていた、という設定が抜群ではないか。まさに練りに練った脚本の粋と言っても過言ではない。病棟の独房の中でも、来るべき日のために、体を鍛えているサラ・コナーの神々しい姿を見て、僕は打ち震えたね。その鍛練の賜物に恥じない大活躍をする彼女の勇姿をとくとご覧あれ。これが本当のフェミニズム映画、といいたいくらいだ。ここ最近、「羊たちの沈黙」「テルマ&ルイーズ」などヒロインのパワーがみなぎるスリラーやアクションの快作が連打されているが、彼女たちの勇姿の後ろには、伝説の“サラ・コナー”の御神影が僕にははっきり見える。

かつて、独自のコンセプトで「エイリアン2」を作り、パート2の宿命である“続編は正編の七掛けの出来がせいぜい”という呪縛を完全に粉砕する傑作を生み出したわれらがジェームズ・キャメロンは、今度もそのジンクス（すでにキャメロンが粉砕してしまったのだから、そんなジンクスは存在しないのだが）を軽くブチ破ってしまった。“パート2作りの天才”という尊称を彼に与えたい。

ネタばらし厳禁のハンデを背負っての拙文となり、隔靴掻痒の思いだったが、これもみな「T2」を雑音抜きで楽しんで貰いたい、という大義のため。作品の文句なしの面白さに引き換えて、お釣りがくるのである。

最後に、声を大にして「T2」凄い！
すっきりしたァ。












TERMINATOR™ 2
JUDGMENT DAY











Storming with relentless, carpetbomb intensity.
“Judgement Day” has arrived. This mother of all action movies.
（その非情なジュータン爆撃のような緊張感が、あらしのようにさかまく。
ジャッジメント・デイはついにこの地に訪れた。すべてのアクション映画の母であるかのように。）
■ハリウッド・レポーター誌　7月1日号

Blast through the competition
and one of the Summer’s highest-grossing films.
（この映画は、他の競争相手をけちらし、夏興行最大の成功を収める。）
■デイリー・バラエティー誌　7月1日号

The movie is one long chase that only occasionally takes a breath to deliver-huh ? - an anti-violence message.
（この映画は、息もつかせぬほどのチェイス映画。しかし、その微かな息継ぎの瞬間に
反暴力のメッセージを送り続けている。）
■U. S. A. トゥディ紙　7月3日掲載

TERMY 2: IT’S A TECHNO-BLAST
（ターミネーター2大爆発！　ターミネーター2はテクノロジーのあらしだ！）
■ニューヨーク・ポスト紙　7月3日掲載

『T2』は娯楽大作であると同時に母の映画でもあるのだ。

永　千絵

L.A.の空港近くのホテル。広い会場は興奮を隠しきれない人々で埋まっている。手を叩き、足を踏み鳴らし、口笛が沸き起こり、興奮も最高潮に達したと思われたとき、わたしたちの前にターミネーターは現れた。彼は全身黒ずくめ、サングラスで目を隠し、悠然と人々の前に立つ。

「最初の映画で、オレはおまえたちに“Fuck You, Ass Hole／”と言ったな」

大喜びの観客が歓声で応える。

「それからオレはこうも言った。“ I'll Be Back”／」

拍手と歓声が一段と高まった。

「オレは戻ったぜ」

もうあとはやんやの大喝采。

＊　＊　＊

毎年恒例のSF・ホラー・コンベンション、今年は公開を間近に控えた『ターミネーター2』の大会だった。開催会場にあてられたホテルの広いホールは“ターミネーター・マニア”とでもいうのか、子ども、若い人から、結構年齢くってるっぽい男女で一杯だ。

アカデミー賞も受賞している特殊効果のスタン・ウィンストン、監督のジェームズ・キャメロンが次々と壇上に登場して、実に丁寧で熱のこもった参加者との質疑応答のあと、いよいよお待ちかねのターミネーター＝アーノルド・シュワルツェネッガーが現れて、冒頭の場面となったわけ。

そもそもわたしは、特にホラー映画やSF映画が好きというわけでも、詳しいわけでもない。ただ『ターミネーター』（1984）は、SFホラー映画というジャンルがもしあるなら、その中でも3本の指に入る大傑作だと思っているし、「いやあ、あの映画はすごいすごい」とある雑誌の編集部の人と話をしていたら、「じゃあ、『ターミネーター2』＝『T2』をL.A.まで観に行きませんか」と夢みたいな話がとびこんできたので、ほいほいのっかったのである。

SF・ホラー・コンベンションというのは、その〈T2ツアー〉の目玉のひとつだった。これもまた毎年東京で行なわれている“ファンタスティック・フィルム・フェスティバル”の常連ファンの、ウワっすべりの異様なノリが薄気味悪くて仕方がないわたしとしては、アメリカのソレもきっと似たような雰囲気のものであろうと覚悟をしたのだけど、うれしいことにアメリカのファンは実に明るかった。ウィンストン氏、キャメロン監督との映画に関する質疑応答のときに、わたしみたいな素人にはツイていけない多分にマニアックな空気が感じられただけで、あとはきゃーきゃーぴーぴーわーわーと、実に明るい雰囲気が漂っていた。

年齢がばらついているせいもあるだろうし、男女の人数差もざっと見渡したかぎりでは、ほとんどない。みんな『T2』公開を待ちこがれて、本当に楽しみにしているファンなんだということはいやでもわかるし、これだけ愛されれば映画も幸せであろう、と、わたしは『T2』になり代わって感動してしまった。

＊　＊　＊

1作めの『ターミネーター』がSFホラー映画というジャンルにはおさまりきらない大きさを持つ映画だということは、観た人なら誰でも賛成してくれるだろうと思う。

人間対機械の壮絶な死闘は、かろうじて人間側の勝利に終わるものの、ほろ苦いあと味と、映画全編に漂う悲壮感、不安感、絶望感はちょっとほかの映画には見られない現実味を持っていた。1984年という時代のせいもあったかもしれない。核戦争がけっしてSF小説や映画の中だけの出来事ではないという認識は充分浸透していたし。もちろん1991年現在だって核戦争の可能性がまったくなくなったわけではないけれど、あれからずいぶん世界も動いて、人類が滅亡の危機に瀕する原因としては“核”なんかよりもっと大きくて深刻な地球環境問題が浮上してきたおかげで、とりあえずは、核戦争なんてバカなことやってらんない、って人間たちが思い始めたようなのはうれしいことではある。

さてしかし「T1」では、核戦争が起こってしまっていた。映画の中で、わたしたちはいやおうなく核戦争後の現実を観せられたのである。世界は“スカイネット”というコンピュータに支配され、核戦争を生き延びることのできた少数の人間たちは“スカイネット”の圧政に抵抗運動を繰り広げていた。その抵抗運動の指導者がジョン・コナー、「T1」ではまだ生まれてもいなかったサラ・コナーの息子である。

『T2』では、その“スカイネット”の秘密と核戦争勃発の経緯も暴かれるのだけれど、これで『ターミネーター』という映画そのものが巨大な伏線になっていたことがわかる。ただ、この大傑作『ターミネーター』をもし観ていない人がいたとしても、『T2』を楽しむことはできる。『T2』は『T2』だけで独立した立派な娯楽大作になっていると思うから。まったく、商売もお上手である。



＊　＊　＊

前作では“Fuck You Ass Hole／”と、“I'll Be Back.”くらいしか台詞らしい台詞のなかったターミネーター＝シュワルツェネッガーが、今回はよくしゃべる。未来のジョンが自分自身を守るようプログラムを入力したターミネーターには学習能力も備わっているらしい。ジョン少年、その母親サラとの交流で、この機械は生命の大切さまで学んでしまうのである。

なんたって前回は、人類の救世主であるジョンの母親サラを殺す使命を帯びて、未来から送りこまれた最強最悪のターミネーターが立場を逆転して、今度はサラとジョン少年を新型ターミネーターT1000から守るために闘うわけだから、気はラクだ。シュワルツェネッガーを敵にまわしたい人なんて、いない。

さらに今回はサラ＝リンダ・ハミルトンが逞しい。「母は強い」とよく言うけれど、母親になった女はがむしゃらだ。前作では、ただ脅えて逃げまわるだけだった女の子サラが立派な女に成長し、ほれぼれするような身体と銃さばきで、母の強さを見せてくれる。

この役のために激しいトレーニングを積んだというリンダ・ハミルトンは記者会見で、「映画を観た人がサラに憧れたりしたら困る」と笑っていたけれど、いや、あれには憧れるなという方が難しい。大事な息子が絶えず死の危険にさらされている母親だもの、強すぎるくらい強くっていいのだ。

自分の子は自分の手で守らなければならないという母の思いは、サラの場合、それがそのまま人類を、地球そのものを守らなければならないという思いに通じているだけに、強烈だ。そこらへん、まだ母でないわたしは想像するだけだけれど、同じようなことを、母親にはなれない男たちにも感じてもらえたらいいなと思う。

＊　＊　＊

おまけとしてご報告。

『T2』を観た翌日、記者会見があった。

監督ジェームズ・キャメロンは公開初日から5日分、L.A.の映画館の切符が売り切れちゃったとかでご機嫌、リンダ・ハミルトンは映画の中の深刻な表情が別人みたいな笑顔がとっても可愛くて、シュワルツェネッガーは、隙を狙ってその背中をつんつんしてみたところ、機械じゃなくて、正真正銘、本物の人間だった。だって、前から一度触ってみたかったんだもん。









1991年7月3日その日…
新記録達成！世界中を『T2』が走った。

全米映画ファンが、そして世界中の映画ファンが、待ちに待ったその日がやって来た。合言葉は『ゲット・ターミネイテッド』。
『T2』――ターミネーター2は、その日7月3日、全米2200館以上で封切られ、文字通り、大観衆の度肝を抜いた。各劇場は連日長蛇の列、ニューヨーク、ロサンゼルスの大都市では劇場に出掛けても整理券を手にするのがせいいっぱい。各地でも2回から3回の上映待ちである。

封切りから5日間が過ぎた時点で5230万ドルの興収をたたき出している。これは少なく見積っても約1000万人の人々が劇場につめかけたことになる。さらに驚くべきことには、このニュースが現地アメリカ時間で7月7日の深夜を待たずに全世界を駆けめぐったことだ。これは、全く異例のことである。AP外電を始めとする通信社が、こぞってこのニュースを全世界に伝えた。映画史上初の封切り週末興収5230万ドルのニュース。それまでの記録があの「バック・トゥ・ザ・フューチャーpart 2」の4301万ドルであることと比べると、まさに異例中の異例の記録である。新記録づくしのこの映画が全世界をかけめぐり、観客を「ターミネート」することはまちがいない！

全招待客に"予感"が走る……
1991年7月7日。ワールド・プレミア開催！

7月1日18時30分、ロス・シネプレックス・オデオンシアター前には、200人を超すプレス関係者が押しかけていた。3日の全米公開を前に異様な盛り上がりを見せる『ターミネーター2』。そのワールド・プレミアを1時間後に控え、続々と姿を現わす豪華なゲストたちを取材せんと待ち構える内外の報道陣たちである。撮影に使われたエンド・スケルトンとハーレー・ダビッドソンの横をハリウッドの星たちが、顔を上気させて通り過ぎてゆく。ロスの暑さのためだけではない。名だたる彼らでさえ今宵ウワサの『T2』の全てを垣間見られる興奮に酔っているのだ。大歓声とフラッシュ・ライトの波は1時間の間一瞬も止むことはなかった。その間会場に消えたスターたちは、J・ベルーシ、M・ビーン、M・ダグラス、W・ゴールドバーグ、アイスT、D・ムーア、C・スレイター、S・スタローン、J・ウッズ等々。そして開映寸前に悠然と現われたシュワルツェネッガーの巨体が夕陽の中で、一層大きなシルエットを残した。

ついに史上最高の製作費1億ドル（前作の10倍）を突破！
舞台は1994年・ロス――
3年先の未来世界をいま、目の当りにさせられる！

『ターミネーター2』の製作費が1億ドルを突破したというニュースが飛び込んで来た。最終的な数字は、直接製作費で1億2百万ドルから1億4百万ドルに及ぶという。これにはP&A（プリント費と宣伝費）に掛かる経費2000万ドルは含まれない。いまや押しも押されもせぬ世界№1スター、シュワルツェネッガーのギャラだけでも1500万ドル支払われたほか、キャメロン監督に600万ドル、リンダ・ハミルトンに100万ドル。そしてカロルコが、ヘムデール（前作製作会社）に支払った『T2』の映画化権料が500万ドルと、以上の合計だけでも2700万ドルが費やされた訳だが、残りの約8000万ドルは、その殆どが近未来の世界を構築するためのセット費と、まるで本物の戦争が行われているようだったと称されるL.A.のロングビーチにあるフリー・ウェイでのロケ費、そして余りにも自然すぎる特殊視覚効果のための費用に充てられた。

近年、全米のマスコミで映画製作費の高騰が取り沙汰され、格好の叩き材料にされているのは事実だが、この『T2』に関していえばロケ、及びスタジオ・シューティングの一切が極秘で進行されてきたのも手伝ってか、逆にこの製作費1億ドル突破というニュースは、マスコミと大衆双方の期待感をあおる結果になった。

スタッフ総勢約1000名――。
通常の2倍にものぼる期間を費やされた
ビッグ・プロジェクト『T2』1990年10月8日撮影開始。

『T2』は、キャメロンが最初に簡単な原案をカロルコに提出した日から完成するまでに、13ヵ月近くを要した。1990年1月に両者の間で契約が取り交わされたが、決められたことは続篇の単純な前提だけだった。1作目の10年後の出来事であることと、2体のターミネーターが同じ時代に送られてくること。1人は幼いジョンを抹殺するように、そしてもう1人は、ジョンを守るようにプログラムされて……。

キャメロンは、新しい脚本をウィリアム・ウィッシャーと合作した。彼は1作目でも脚本の完成度を高めるために貢献したが、2人は昼も夜も共に仕事をし、8週間で脚本の最初の草案を完成させた。

予定のぎっしりと詰まった3週間の製作準備期間が終わり、そして1990年10月8日、L.A.近郊の町バレンシアを中心に6ヵ月にわたる厳しい撮影が開始された。実写部分の撮影に6ヵ月を要するのは、通常の約2倍。ドラマティックでアクションがいっぱいの続篇の脚本に魅せられた、1000人以上もの力が、このビッグ・プロジェクトに結集したのである。そして、1991年3月29日、『ターミネーター2』クランクアップ――。

PRODUCTION NOTES

L.A.近郊の町バレンシアに1994年の近未来都市出現

『T2』の多くのシーンが撮影されたバレンシアは、ロサンゼルスから車で30〜40分。ハイウェイを北東に走ったフォンタナの、広大な荒地にある廃業した製鋼工場に、強烈な熱と光を放つ工場が再建された。4つの巨大セットはその工場の内部を改造して作り上げられたのである。

始まりから終わりまで、つまり構想を作りあげてから最後のセットを作るまで、その行程にはほとんど丸一年を費した。

プロダクション・デザイナーのジョセフ・ネメック3世の最大の挑戦は、クライマックスのために、長い間廃業していたこの工場を修復することだった。ネメックは説明する。「脚本に書かれたアクションを容易にするためには、2ヵ所の巨大な地域を一新する必要があった。でも、その巨大さだけで面食らってしまってね。図書館で調べたり、他の製鋼工場を見学したりして、その工程をよく理解したんだ。」

またネメックとスタッフは、工場の中に巨大なコンベアー装置と直径14フィートで1つ1000ポンド近くもある、融解した金属を運ぶ鉄製の桶を2つ製作した。当初はもっと冷たいイメージのセットになるはずだったが、続いてネメックはこう語る。

「それはまるで人体の内部のようだよ…。」

すべてがケタ外れ！どんな形容詞も及ばない『T2』プロダクション・ニュース

その他、カリフォルニア、ロングビーチのターミナル・アイランド・フリーウェイ等の場所では、撮影助手と電気技師が夜の追撃シーンの照明のため、10マイルものケーブルを引いた。そして、北カリフォルニアの無人のオフィス・ビルでは花火師のチームで映画史上最大規模の警察の射撃シーンが撮影された。

さらに、ロサンゼルスの広大な洪水調整用の水路で、ハイスピードのチェイス・シーンを撮影するために、水の流れを変えてしまうことまで成功。『T2』の製作規模と発明がいかにケタ外れのものであるか、想像もできないくらいだ……。

ARNOLD TRANSFORMED TO TERMINATOR 35 TIMES IN THIS PIC.

撮影中に、メイクアップ・アーティストのジェファーソン・ドーンと、アシスタントのスティーブ・ラポート、ヘアースタイリストのピーター・トスパルがシュワルツェネッガーを半人間半サイボーグのターミネーターに変身させたのは延べ35回。これは6日間、メイク台にずっと座りっぱなしでいるのと同じこと。メイクアップのプロセスでは、俳優自身に肉体的にストレスがかかることが多いが、彼らは異口同音に云う。「私たちの仕事がスムーズに進行したのは、アーノルドがプロ中のプロだったからだよ……。」

さて変身後のシュワルツェネッガーにこんなエピソードがある。ロケ現場を訪れた彼の愛娘キャサリンちゃんが、彼の姿を見て突然泣きだした。「かわいそうなお父さん。みんなにいじめられて、顔がめちゃくちゃに傷つけられちゃったの?」

キャサリンちゃんは現在2才。

徹底したプロたちの追究が圧倒的なシーンを生んだ！

キャメロンは細部まで緻密にあらわしたモデルを使い、親指大のビデオカメラの助けを借りて、連続シーンの構想を立てた。ネメックはミニチュアでシーンの輪郭をつかみ、それからそのシーンに本当に合うようにセットを変えていく。このような作業からのプリントアウトが予備的なストーリー・ボードになり、それをイラストレーターが手直しする。ネメックとスタッフは、ここからセットを完成させていったのである。

「俺は誰ひとり殺さない……」

ストーリーの極秘指令が世界共通で敷かれている『ターミネーター2』だが、ストーリーを探るキー・ワードは幾つかある。

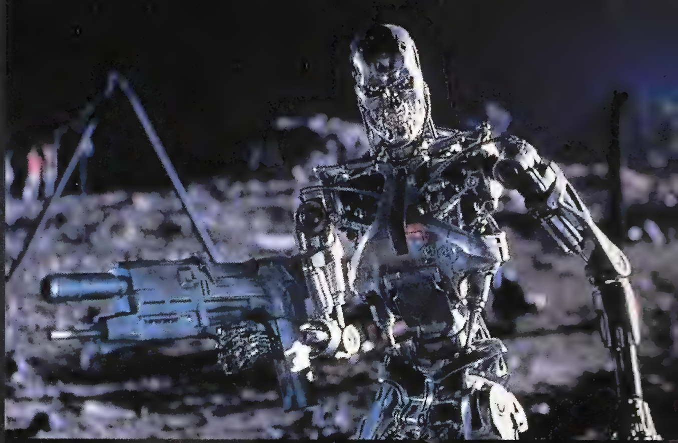
全米で4月から第2次宣伝キャンペーン期間中、劇場で流れた予告篇の中で、ターミネーター=シュワルツェネッガーはこう語っている。

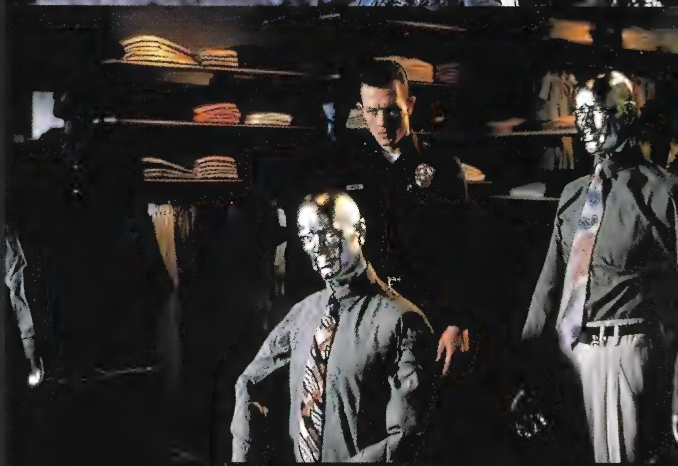
「誓って云う。俺は誰一人殺さない。」

そして『T2』の全篇を貫くテーマは“愛”だということ。男と女の愛ではない。“愛”という感情そのものである。

そしてキャメロンは、こう付け加えた。「この映画のキー・ワードは涙です。」

全米の観客層も42%が女性で構成されている。この状況はどう解釈すればよいのか?『ターミネーター2』は、前作が遥か及ばないところまで到達してしまったことは、間違いないようだ。









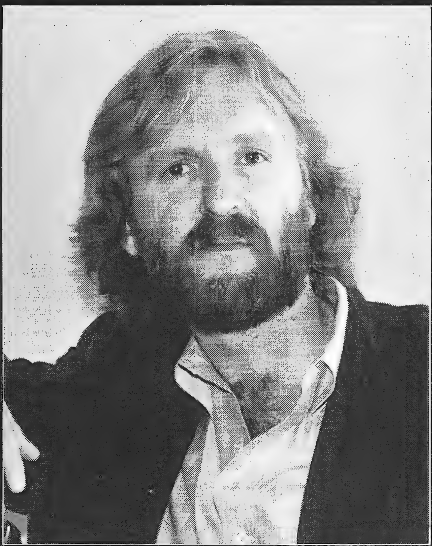
STAFF

「この映画が他の映画と比較して、よりパワフルであるとすればそれは、シリーズを通じてのテーマを我々の身近かで起こっても何ら不思議でないことに置いた最初の映画だからです。『ターミネーター』シリーズは、ターミネーターについての映画ではなく、超人のように人の先に立ち、人間の心の奥まで見透すことを要求されて強さを発揮することになった、普通の女性の物語なのです。

また同時にこの映画はラブ・ストーリーなのです。マイケル・ビーンが「T1」で「時を超えて君に会いに来たんだよ」というセリフを言った時に、何てロマンチックなんでしょうという感想を多くの女性が持ったのを私は知っています。基本的には勿論アクション映画であるというコンセプトでしたが、「T1」『T2』両作品に共通していえるのは、この映画が異常な状況に置かれた実際の人物のヒューマン・ストーリーだということです。ターミネーターそのものは、とても精巧に出来たロボットで、それに興味を抱いた方もいらっしゃると思います。でもこのシリーズには、そんな特殊効果以上に面白いストーリーの要素が山程あり、それで上手くいったのだと自負しています。それが、男性だけでなく女性が支持してくれた理由です。

『T2』の素晴しさの基本となっているのは優れた脚本です。人間性、ヒューマニティに関する素晴らしいストーリーがその基礎にあるのです。それが大切なことだと思っています。登場人物に感情移入ができなければ、ただの表面的に面白いスペクタクルになってしまって、偉大な映画にはなり得ません。

『T2』の最大の魅力は、新しいアイディアと登場人物たち、そして人間のドラマである点だと思います。よく人は派手なアクションばかりに注目して、映画自身の成否についてもそこに原因を求めたがりますが、重要なのは映画全体が面白くてクリエイティブだということ。そうでなければ続きものは創れない。登場人物たちが同じでも、新しくて今までとは違ったものを目指しているのです。」



MESSAGE FROM JAMES CAMERON

監督■ジェームズ・キャメロン





製作・監督・脚本／ジェームズ・キャメロン

1989年アカデミー賞で視覚効果賞を受賞した「アビス」で、驚異的な映像を披露し、その科学性と芸術性が高く評価されたキャメロン。彼の作品にはSFXを駆使したものが多いが、他のSFX映画にありがちな人工的、非現実的なものではなく、ファンタジックで生命感のある非常に精巧なものがほとんどだ。そして、SFXやアクションのダイナミックさに負けない、強い個性と存在感のあるキャラクターからなる人間のドラマがしっかりと描かれ、また、作品の根底に流れるテーマ“大いなる愛”が、キャメロン作品の最大の魅力となっている。しかし、その才能は既に84年公開の「ターミネーター」で開花、低予算とは思えない完成度と迫力、高いドラマ性をもったサイエンス・フィクションとして、多くの観客を魅了した。1作ごとに確実にレベルアップを図り、常に斬新なアイディアを提供し続けるキャメロン。また、大学時代に小説家を志望していた彼は、脚本家としての才能も発揮している。今や、SFXのトップ・メイカーとして、彼の右に出るものはいない。

1954年、カナダ生まれ。カリフォルニア州オレンジ・カウンティで育つ。2年で大学を中退し、生活のためにトラックの運転手をしていたが、80年ごろ、当時ロジャー・コーマンが社長をしていたニュー・ワールド・ピクチャーズに職を得たことから映画界に入る。「宇宙の7人」(80)「ニューヨーク1997」(81)でプロダクション・デザインからカメラまであらゆる映画技術を学び、仕事に対する積極性と才能が認められ、「ギャラクシー・オブ・テラー」(81㊎)で第二班監督に昇格。「ターミネーター」(84)で大ヒットを放ち、世にその名を知らしめた。「ランボー2／怒りの脱出」(85)「エイリアン2」(86)など大ヒット作を連発。そしていま再び「T2」においてSFX映画のみならず、90年代ハリウッド映画に大いなる飛躍をもたらそうとしている。

製作総指揮／マリオ・カサール

国際的な映画配給界の大物である。今までに例のない18才という若さで、自分の映画配給会社カサール・フィルム・インターナショナルを創立、アジアやヨーロッパでの映画の販売・配給・上映を専門とし、成功を収める。そして1976年、アンドリュー・バイナと共にカロルコを設立。初のメジャーな独立映画製作会社となった。1985年にリリースされた「ランボー」と「ランボー／怒りの脱出」(85)で大成功を収め、「ランボー3／怒りのアフガン」(88)「エンゼル・ハート」(87)「レッドブル」(88)「ジョニー・ハンサム」(89)「フィールド・オブ・ドリームス」(89)「トータル・リコール」(90)など次々と大ヒット作を生み出している。

製作総指揮／ゲイル・アン・ハード

キャメロンの「アビス」(89)や「エイリアン2」(86)といった大ヒット作に参画したことにより、アクション、アドベンチャーのジャンルで確固たる地位を築いた。スタンフォード大学を主席で卒業し、ニューワールド・ピクチャーズに入社。社長コーマンのアシスタント、広告宣伝の仕事を経て、製作部門へ。プロダクション・マネージャーやプロデューサーを経験した後、1982年に独立製作会社パシフィック・ウェスタン・プロダクションを創立。「ターミネーター」(84)がデビュー作となった。彼女の功績が認められ、アメリカ映画協会は協会の女性への助成金制度を設立。また、彼女は新人の演出家や脚本家を起用する製作会社を創立している。

共同脚本／ウィリアム・ウィッシャー

ロサンゼルスに生まれる。キャメロンとは高校時代を過ごしたブレアで出会って以来の友人。大学もキャメロンと同じフラートン大に学び、初め俳優を目指したが後に脚本に転向した。83年、キャメロンの依頼で「T1」の脚本を加筆・改訂、大ヒットの一因を任う。他にNBCテレビ映画“Desperado : Outlaw Wars”(90)の脚本や、「エルム街の悪魔5／ザ・ドリームチャイルド」(89)の共同脚本を執筆。最新作は“Skimmers”で『T2』と同じプロダクションでの映画化が決定している。

共同製作／B.J.ラック

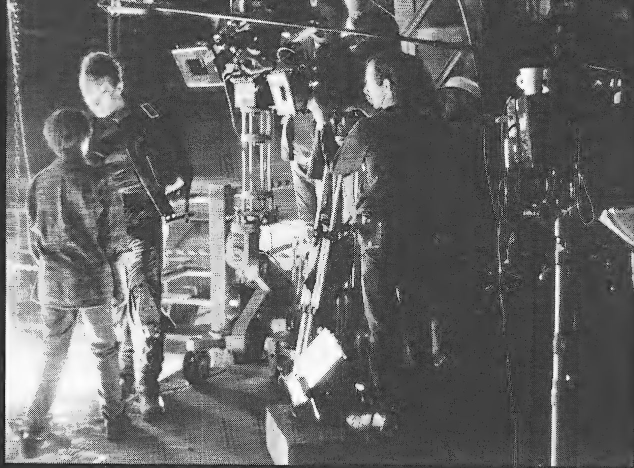
1991年3月25日、L.A.のシュライン・オーディトリアムでは、オスカー像を手にしたSFXマンたちが、場内の万雷の拍手に応えていた。「トータル・リコール」(90)の圧倒的な視覚効果に対してアカデミー協会が異例の特別表彰を行ったのである。その視覚効果をプロデュースしたのが、他ならぬB.J.ラックなのだ。サンディエゴのテレビ局、メキシコ映画界を経て、数多くの独立プロの製作部門で辣腕をふるう、数少ない“本物の”女性プロデューサーの一人。

共同製作／ステファニー・オースチン

ラックと比肩する超一流女性プロデューサー、オースチンは、主にTV界でその腕を発揮してきた。代表作は全世界に衝撃を与えたミニ・シリーズ「ザ・デイ・アフター」(83)で、アメリカで46%の視聴率を稼いだこの作品は、日本ほか多くの国で劇場公開された。この他にも30以上の作品を手がけた彼女は、その業績により“リリアン・ギッシュ賞”を受賞している。「ホーム・アローン」のクリス・コロンバス監督の前作「ハートブレイク・ホテル」(88)の製作で、劇場映画に進出した。

撮影監督／アダム・グリーンバーグ

「T1」に引き続き、本作品でも撮影を手がけたグリーンバーグは、ポーランド生まれのイスラエル育ち。アメリカに移ってからのキャリアは短いものの、「T1」以後次々とヒットを飛ばしている新進気鋭の撮影監督である。主な作品は「アイアン・イーグル」(86)「ラ・バンバ」(87)「スリーメン&ベイビー」(87)「エイリアン・ネイション」(88)「ターナー&フーチ／すてきな相棒」(89)。また、90年最大のヒット作「ゴースト／ニューヨークの幻」がある。



音楽／ブラッド・フィーデル

シンセサイザーを駆使して作り上げた「T1」の音楽は、荒けずりだが何とも言えず不気味なムードに満ちあふれていた。それが、フィーデルの映画デビュー作。この『T2』では、その不気味さをさらに鋭く、加えて大作らしい壮厳さを漂わせることに成功している。『T2』以後の印象的な作品には「フライトナイト」(85)「トゥルー・ビリーヴァー」(88・日本未公開)「ブルースチール」(89)などがある。またテレビ映画やミニ・シリーズでは、すでに40以上の作品を手がけている。

プロダクション・デザイナー／ジョセフ・ネメックIII世

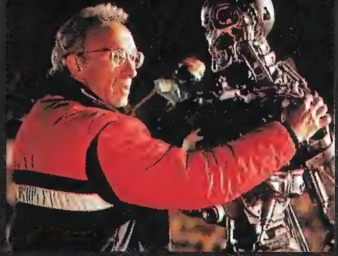
まずネメックが簡単なセットを作り、その精緻なモデルでキャメロンがシーンの構想を立て、それをもとに実際にセットを完成させる——この作業の繰り返しのため、結局始まりから最後のセットを作るまでに、丸1年を費した。ネメックがキャメロンと組むのは「アビス」(89)に次いで2度目。「ザナドゥ」(80)「縮みゆく女」(81)のセット・デザイナー、「カラーパープル」(85)「グーニーズ」(85)の美術監督補を経て一人立ちした。他の作品に「ダブルボーダー」(87)「48時間PART2」(90)など。

編集／マーク・ゴールドブラット／リチャード・A・ハリス／コンラッド・バフ

『T2』のジェットコースターのような、息つく間もない展開を可能にするためには、3人のハリウッド超一流の編集マンの参加が必要不可欠だった。主にアクション・シークエンスを担当したのは、「T1」に引き続き参加のマーク・ゴールドブラット。「コマンドー」(85)、「ランボー／怒りの脱出」(85)の編集者として、また「ロボコップ」(87)の第2班監督として知られるバリバリの“武闘派”である。そしてドラマ部門を手掛けたのは、「候補者ビル・マッケイ」(72)、「ガンバレ!ベアーズ」(76)、「フレッチ／殺人方程式」(85)のベテラン、リチャード・A・ハリス。人類の未来を賭けた壮大なストーリーを、見事に描き出している。最後に『T2』が『T2』である本質、つまりSFシーンに腕をふるったのが、コンラッド・バフ。「E.T.」(82)、「スターウォーズ／帝国の逆襲」(80)、「同／ジェダイの復讐」(83)、「レイダース／失われたアーク」(81)、「ゴーストバスターズ」(84)、「2010年」(84)などの編集／視覚効果監督として、その名はSF映画ファンの間では神話的な響きを持って語られる存在である。本作でも、その知識と経験を縦横に操り、我々のSFマインドを心地良く刺激してくれる。——この3人の鉄壁のチームワークと、ジェームズ・キャメロン監督の確固たるリーダーシップのもと、『T2』は、アクション、ドラマ、SFの完全なる融合という難題を見事にクリアしたのである。

衣裳デザイン／マーリーン・スチュワート

パリ、ミラノ、ニューヨークでデザイナーとしてスタートしたスチュワートは、やがてマドンナと出会い、彼女の11のビデオとコンサート・ツアーを手がけることでティーンエイジャーの間に“マドンナ・ファッション”を流行させた張本人。同時にシェールやジャネット・ジャクソンの衣裳も担当し、次第にショウ・ビジネス界に進出するようになった。映画では「シエスタ」(87)「ペット・セメタリー」(89)「蘭の女」(90)「ドアーズ」(91)などがある。



史上初、史上最高の特殊視覚効果を実現！その手法は誰にもわからず、この才能には誰も及ばない。観客は抵抗する余地などなしに、夢の世界へと誘われていく……。

■スタン・ウィンストン（特殊メイクアップ効果）

映画界で最も偉業を成し遂げている特殊効果アーティストの一人。1968年、バージニア州立大学で演劇と美術を専攻した後、カリフォルニア州に移り、そこで劇のメイクアップの見習いを始めた。後にウォルター・ディズニー・スタジオに入社し、メイクアップと特殊効果部門に配属され頭角をあらわす。

1作目の「ターミネーター」で、単なる特殊メイクだけでなく、サイバーダインのアニマトロニクス（機械仕掛けで稼動する技術）・パペットをクリエイトして脚光を浴びたスタン・ウィンストンは、『エイリアン2』でアカデミー賞を受賞。その他『プレデター』シリーズや『シザーハンズ』も手掛ける、超売れっ子。『パンプキンヘッド』『グノーム』など、自らも映画監督業に進出。未来の工場で組み立てられるサイバーダインを描いた『T2』の予告編第1弾は、本編撮影が開始される以前にウィンストンが監督したものだ。今回、初の試みとして、レーザー・スカルプティング・システムを使って、俳優の型取りを行った。このシステムは、約10秒程俳優の顔をレーザー・スキャンし、コンピュータにインプットしたデータで、俳優の胸像のレプリカを作り上げるのが可能である。従来のライフキャスト技術より、豊かな表情のままの正確な複製が得られるのだ。また、アニマトロニクス技術も究極の域に達し、顔が崩れた状態のシュワルツェネッガーの演技の多くをダミー・パペットを使って撮影した。

彼の名前は、ダン・オバノン監督作品「ゾンゲリア」、ジョン・カーペンター監督作品「遊星からの物体X」など大作・話題作の特殊効果チームの中にも見つけることができる。その他の担当作品には、高視聴率を記録したTVムービー「ルーツ」、ダイアナ・ロス、マイケル・ジャクソン主演の「ウィズ」、各々エミー賞に輝いたTVムービー"The Autobiography of Miss Jane Pittman"と"Gargoyles"、さらに前作「ターミネーター」や「エイリアン2」では第2班監督も務めている。

ジョージ・ルーカス率いるI. L. M. が主導権を握り、編集班3チーム、特殊効果班5チームが編成された。その総動員数は、アカデミー賞で特殊視覚効果賞に輝いた「アビス」の実に4倍。今回は彼らによって、ライブ・アクション＝アニメーションの新しい技術も開発された。まさに筆舌に尽くし難い映像が、次から次へと可能になっている。

また、ターミネーター本体のデザインはキャメロン自身によるもので、人間のガイ骨をイメージしている。これを更に具体化し設計したのは特殊メークの天才、スタン・ウィンストン。前作で彼は等身大の本体を各部ごとに作り、それを組み合せてガイ骨型ロボットを完成させた。その骨格はもちろん、シュワルツェネッガーの骨格に合わせて作られたもの。前作のターミネーターは、サイバーダイン101型として未来から送り込まれてきたが失敗に終ったため、『T2』の舞台では、新たに改良を加えられた"ターミネーター1000型"というマシーンが登場。擬似多合金製のボディを有し、体が傷つけられても瞬時に自ら修復、さらにどんな形にも変身可能なのだという。





「ターミネーター２」キャラクター商品通信販売のお知らせ



この写真の商品は、Tシャツ、ブリンキーバッジ、テレホンカード２種です。

商品名	ポスター(A)	ポスター(B)	下敷	ラミネートカード	カンペンケース	シャープペンシル	カードケース	キーホルダー
料金	¥500	¥300	¥300	¥500	¥450	¥500	¥450	¥600
サイズ他	61×91cm	51×72cm	Ｂ５判	５枚１組	ワイド型中皿付	ロゴ入		Ｔ２ロゴ
送料（梱包料含む）	１枚～¥600	１～２枚 ¥370 ３～５枚 ¥470	１枚 ¥220 ２枚～ ¥320	１組 ¥120	１～２個 ¥320	１本～ ¥150	１個 ¥120	１個 ¥150

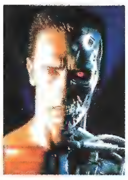
商品名	ブリンキーバッジ	ステッカー	Ｔシャツ	テレホンカード(A)	テレホンカード(B)	カレンダー	ソフトビニールキット
料金	¥1,300	¥300	¥2,200	¥1,000	¥1,200	¥1,800	¥6,000
サイズ他	ターミネーターの目が赤く点滅する	5,7×16cm	半袖 黒 フリー	50度数	50度数 表面アルミ箔	表紙共７枚	サイバーダイン
送料（梱包料含む）	１個 ¥150	１枚～ ¥120	１枚～ ¥320	１枚～ ¥120	１枚～ ¥120	１部 ¥500	１セット ¥600

■カワセ又は現金書留で商品代金＋送料の合計をお送り下さい。（あるいは代金＋送料を切手にかえてお申し込み下さい。）
■住所、氏名、電話番号、希望商品と個数及び映画名を記入してご注文下さい。
■商品は注文後、約３週間でお手元に届きます。
■カレンダーの発送は10月下旬の予定ですので、それまでしばらくお待ち下さい。
■商品代金・送料は消費税込みの料金です。

■ご注文の受付は平成３年11月末日までです。
■商品申し込み先
〒104 東京都中央区銀座２－６－４ プレイガイドビル
㈱東和プロモーション「ターミネーター２」商品係
問い合わせ先 03-3564-6034

ターミネーター２ スチール写真 絶賛発売中!!


C－1


C－2


C－3


C－4


C－5


C－6


C－7

お知らせ

○カラー写真を通信販売いたします。
○カワセ又は現金書留で代金をお送り下さい。（あるいは代金を切手にかえてお申し込み下さい。）
○住所、氏名、電話番号、映画名、写真番号、サイズ、枚数を記入して下さい。（例：ターミネーター２ Ｃ－１ ４ツ切１枚）
○写真の発送はご注文後３～４週間後になります。
○ご注文の受付は平成４年８月末日迄です。
○写真申し込み先 〒104 東京都中央区銀座２－６－４ プレイガイドビル 株式会社 東和プロモーション Ａ－89係

販売価格（送料・消費税を含む）	写真のみ	アルミフレーム付パネル
ポストカード 14.5×9.7cm	¥310	
６ツ切 24.0×19.0cm	¥1,550	¥2,800
４ツ切 29.0×24.0cm	¥2,050	¥3,900



夢の世界を実現した『T2』テクニカル・スタッフ

■スティーブ・バーグ
（コンセプト・アーティスト）

『アビス』で宇宙人のデザインを、『トータル・リコール』で未来環境をデザインした若手デザイナー、スティーブ・バーグが、『T2』全体のコンセプト・デザインを担当。また、フィリップ・ノーウッドやジョン・ブルーノとともに、ストーリー・ボードも手掛ける。『アビス』と同様、小型ビデオカメラでミニチュアセットをあらゆる角度から撮影し、それをプリントアウトしたものに基づいてストーリー・ボードを作成する、ビデオマチックス方式と呼ばれる手法を用いた。



■ジョセフ・ネメック3世
（プロダクション・デザイナー）

『アビス』でアート・ディレクターを務めたネメックを、「プロダクション・デザイン全体を指揮する能力がある」とキャメロンは確信し、数々のロケ地やスタジオ・セットの製作を監督する大任を与えた。



■アダム・グリーンバーグ
（撮影監督）

１作目の『ターミネーター』をはじめ、アクション映画の経験も豊かな、イスラエル出身のキャメラマン。近年では『スリーメン&ベイビー』『ゴースト／ニューヨークの幻』も手掛ける。

■ゲイリー・デービス
（スタント・コーディネーター、第2班撮影監督）

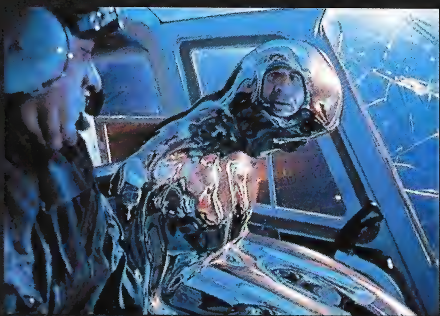
■トーマス・フィッシャー
（特殊効果スーパーバイザー）

火薬やワイヤーワークなど、現場でのＳＦＸの責任者。

総勢150人以上！特殊視覚効果（ビジュアル・エフェクト）を手掛けるベテラン3社

■ファンタジーII

ビル・ウォーレン率いるファンタジーIIは１作目の視覚効果を担当。『T2』では、前作が低予算だったために表現しきれなかったという未来戦争のシーンを、よりパワーアップさせ、視覚化。ミニチュアも前作のものは流用せず、より大型のものを製作して撮影した。



■4ワード・プロダクションズ

4ワード・プロダクションズを率いるスコタック兄弟は、『エイリアン2』でアカデミー賞を受賞。彼らは、この映画のハイライトとなる、大都市を襲う核爆発シーンなどを担当した。

■ＩＬＭ

T-1000の変身シーンはコンピュータ・グラフィックスで処理され、この分野で最先端を行くルーカスのお膝元、ＩＬＭのコンピュータ・グラフィックス部門が担当。スーパーバイザーは、新技術開発で定評のあるアカデミー賞受賞者、デニス・ミューレン。『アビス』で、海水に姿を借りた宇宙人を視覚化した技術を発展させたものだ。『ウィロー』で人間や虎に変身するシーンのために開発したマーフィング技術は、二つの映像をデジタルに記憶させ、片方の映像からもう片方の映像にスムーズに変化させるもので、T-1000の変身シーンには不可欠な要素だった。映画史上最多のコンピュータ・グラフィックス・シーンを約半年間という短い製作期間で手掛けることが最大のチャレンジだったという。



MAKING OF T-800 TYPE

ターミネーターの複製を製作するために、シュワルツェネッガーから11タイプの型（モールド）が作られた。そしてこの複製を動かすために無線やケーブルによる制御装置や、数値制御の機械など、あらゆる最新技術が使用された。これは、ターミネーターの頭部だけのことであるが、それだけでなくボディ全体としても、自動制御ロボットのものが2体製作された。さらにウォーキング・リグと呼ばれている、ウエストより下の部分も計2体、胴体の上の部分だけのものが１体と、細分化されたロボットが数体作られている。

TERMINATOR™ 2
JUDGMENT DAY

〈STAFF〉

Produced and Directed by	JAMES CAMERON
Written by	JAMES CAMERON & WILLIAM WISHER
Executive Producers	GALE ANNE HURD and MARIO KASSAR
Co-Producers	B.J.RACK
	STEPHANIE AUSTIN
Director of Photography	ADAM GREENBERG, A.S.C.
Production Designer	JOSEPH NEMEC III
Film Editors	CONRAD BUFF
	MARK GOLDBLATT.A.C.E.
	RICHARD A. HARRIS
Special Makeup and Terminator Effects Produced by	STAN WINSTON
Computer Graphics Images by	INDUSTRIAL LIGHT & MAGIC
Industrial Light & Magic Visual Effects Supervisor	DENNIS MUREN, A.S.C.
Music by	BRAD FIEDEL
Costumes Designed by	MARLENE STEWART
Casting by	MALI FINN
The Song Featured In T2 "You Could Be Mine"	GUNS N' ROSES (Courtesy of Geffen Records)

MARIO KASSAR Presents
A PACIFIC WESTERN PRODUCTION
in Association with LIGHTSTORM ENTERT AINMENT

〈CAST〉

Terminator	ARNOLD SCHWARZENEGGER
Sarah Connor	LINDA HAMILTON
John Connor	EDWARD FURLONG
T-1000	ROBERT PATRICK
Dr. Silberman	EARL BOEN
Miles Dyson	JOE MORTON
Tarissa Dyson	S. EPATHA MERKERSON
Enrique Salceda	CASTULO GUERRA
Tim	DANNY COOKSEY
Janelle Voight	JENETTE GOLDSTEIN
Todd Voight	XANDER BERKELEY
Douglas	KEN GIBBEL

〈スタッフ〉

監督／製作	ジェームズ・キャメロン
脚本	ジェームズ・キャメロン／ウィリアム・ウィッシャー
製作総指揮	ゲイル・アン・ハード／マリオ・カサール
共同製作	B・J・ラック
	ステファニー・オースチン
撮影監督	アダム・グリーンバーグ(A.S.C.)
プロダクション・デザイナー	ジョセフ・ネメック3世
編集	コンラッド・バフ
	マーク・ゴールドブラット(A.C.E.)
	リチャード・A・ハリス
特殊メークアップ／ターミネーターボディ製作	スタン・ウィンストン
C・G・イメージ	I.L.M.工房
I.L.M.視覚効果スーパーバイザー	デニス・ミューレン(A.S.C.)
音楽	ブラッド・フィーデル(サントラ盤・SLCレコード)
衣裳デザイン	マーリーン・スチュワート
キャスティング	マリ・フィン
T2 主題歌"ユー・クッド・ビー・マイン"	ガンズ・アンド・ローゼズ

〈キャスト〉

ターミネーター	アーノルド・シュワルツェネッガー
サラ・コナー	リンダ・ハミルトン
ジョン・コナー	エドワード・ファーロング
T1000型ターミネーター	ロバート・パトリック
シルベルマン院長	アール・ボーエン
マイルス・ダイソン	ジョー・モートン
タリーサ・ダイソン	S・エパーサ・マーカーソン
エンリケ・サルセーダ	カストゥロ・フェーラ
ティム	ダニー・クックセイ
ジェネル・ボイト	ジャネット・ゴールドスタイン
トッド・ボイト	ザンダー・バークレイ
ダグラス	ケン・ギーベル

1991年 8 月24日発行

発行所　東京都千代田区有楽町1—2—1　東宝・出版事業室
発行者　東京都千代田区有楽町1—2—1　大橋雄吉
発行権者　東京都中央区銀座2—6—4　プレイガイドビル内
㈱東和プロモーション・東宝東和株式会社
編集　東京都千代田区有楽町1—6—1　㈱スタジオ・ジャンプ
印刷所　東京都港区芝2—1—28　成旺印刷株式会社

定価400円(税込み)



MCA VICTOR, INC.



映画「ターミネーター2」主題歌 THE 1st SINGLE

YOU COULD BE MINE

NOW ON SALE　CDS MVDG-3 ¥930(税込)

GEFFEN RECORDS

USE YOUR ILLUSION I
USE YOUR ILLUSION II

COMING SOON　CD MVCG-43/MVCG-44 ¥2,500(税込)

MEDIX 21
株式会社 メディックス21

SUPER TELEPHONE GAME

新しい面白さ、続々上陸中。

Q² DIAL

スーパーテレホンゲーム

ゲームは1日3回までの
かけすぎ防止付き!
制限時間約6分の
タイムリミット付き!

映画公開と同時に緊急スタート!!

ターミネーター2

「I'll be back……」

ゲーム内容

ターミネーター(コーラー)となった君は、ジョン・コナーを助け、
さらにスカイネットシステムに関するコンピューター半導体のプロトタイプを破壊するため、
T-1000を倒し、3桁の暗唱コードを解き明かさなければならない。
ゲームのタイムリミットは90秒。正解者にはプレゼントチャンスナンバーが発行される。

ゲーム料金

ゲーム料金は1分間約52円です。ゲーム終了まで/約6分=312円
(各センターへ市外からおかけになった場合には、市外電話料金がかかります)

★★★

ゲームを楽しんで、ターミネーターの
オリジナルグッズがもらえる。

★★★

正解者は、プレゼントチャンスナンバー・住所・氏名・年令・電話番号を葉書に明記のうえ、
下記(お問い合わせ先)までお送りください。
抽選で毎日5名様にターミネーター・オリジナルグッズが当たります。

お問い合わせ先 ㈱メディックス21 〒150 東京都渋谷区広尾5-14-2広尾KKビル2階 TEL.(03)3473-0711

DIAL

東京センター……0990-333-900 名古屋センター…0990-333-903 福岡センター……0990-333-905
横浜センター……0990-333-902 大阪センター……0990-333-904 ゲーム料金を確認のうえダイヤルしてください。

※このサービスは、各市内から各センターへかけた場合11.5秒=10円(情報料+通話料)がかかります。
情報料はどの区域からかけても変わりませんが、通話料は遠距離になるほど高くなります。なるべくお近くのセンターへおかけください。

PIONEER LDC

TERMINATOR™ 2 JUDGMENT DAY



アーノルド・シュワルツェネッガー
ターミネーター2

ジェームズ・キャメロン監督作品
リンダ・ハミルトン／ロバート・パトリック／エドワード・ファーロング
パイオニアLDC提供 東宝東和配給

T 2 公 開 記 念



監督：ジェームズ・キャメロン
出演：アーノルド・シュワルツェネッガー／マイケル・ビーン／リンダ・ハミルトン 他

ターミネーター

8/25 レーザーディスク ON SALE
ウルトラプライス ¥3,800 税抜

倒しても倒してもまた立ち上がる、殺人マシーンの恐怖──。A・シュワルツェネッガー主演の、超ド級SFバイオレンス。第2弾公開を記念して、ウルトラ・プライスで再登場！

劇場・本予告編収録 ニューマスター使用 劇場公開版・ノートリミングビスタサイズ PILF-1297 109分 税込¥3,914 税抜¥3,800

digital AUDIO



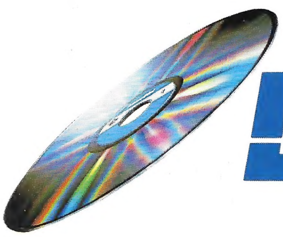
出演：ジェームズ・キャメロン／アーノルド・シュワルツェネッガー／リンダ・ハミルトン／エドワード・ファーロング 他

プロローグ オブ アーノルド・シュワルツェネッガー ターミネーター2

LDシングル VHSビデオカセット 好評発売中
初回限定発売 ¥900 税抜

大迫力のSFXなどT2の魅力溢れる撮影のビハインドシーンを収録したプロモーションビデオがなんと低価格で緊急発売。ターミネーター・フリーク必見！

LDシングル PIMF-1001 VHS PIVS-1127 20分
税込¥927 税抜¥900



LaserDisc®

時代は、レーザーディスク。
LASER DISC このマークはレーザーディスクの統一マークです。

パイオニアLDC株式会社

TERMINATOR™ 2
JUDGMENT DAY

MARIO KASSAR Presents A PACIFIC WESTERN Production In Association With LIGHTSTORM ENTERTAINMENT A JAMES CAMERON Film ARNOLD SCHWARZENEGGER "TERMINATOR 2: JUDGMENT DAY" LINDA HAMILTON ROBERT PATRICK Music by BRAD FIEDEL Special Makeup and Terminator Effects Produced by STAN WINSTON Computer Graphics Images by INDUSTRIAL LIGHT & MAGIC Film Editors CONRAD BUFF, MARK GOLDBLATT, A.C.E., RICHARD A. HARRIS Production Designer JOSEPH NEMEC, III Director of Photography ADAM GREENBERG, A.S.C. Co Producers B.J. RACK and STEPHANIE AUSTIN Executive Producers GALE ANNE HURD and MARIO KASSAR Written by JAMES CAMERON & WILLIAM WISHER Produced and Directed by JAMES CAMERON

SPECTRAL RECORDING DOLBY STEREO SR IN SELECTED THEATRES

CAROLCO

GEFFEN SOUNDTRACK AVAILABLE ON GEFFEN CASSETTES AND COMPACT DISCS

東宝 TOWA